

「パーム油が引き起こす地球温暖化」

大阪府立泉北高等学校 1年 田中 和

今、世界で問題となっている地球温暖化。未来の地球、そして未来の私たちの生活に大きな影響を与えるものとして注目を集めている。最近ではSDGsの中に気候変動に関する目標が組み込まれた。では、地球温暖化によって起こる問題とは具体的にどのようなものなのだろうか。地球温暖化によって起こる現象は環境に関すること、例えば気温の変化や海面の上昇、急激な天候の変化などだ。日本でも、最高気温が35度を超える猛暑日や夜の最低気温が25度を超える熱帯夜が増え、最低気温が0度未満の日が減ったり、最近よくニュースで耳にする局地的な大雨が増えたりといったことが起こっている。世界的には平均気温の上昇や、水温上昇によって起こる海水の膨張、氷河が溶けることによって起こる海面水位の上昇などが問題になっている。

こんな事が起こる原因は何だろうか。それは私たち人間の活動による温室効果ガスの増加だと考えられている。温室効果ガスの影響によって地球の温室効果が高まり、上記のような現象が発生するのだ。二酸化炭素が一番、地球温暖化に影響を与えやすい。石炭や石油の消費、またセメントの生産などによって大気中に放出される。また、二酸化炭素を吸収し、酸素に変化させ大気中に放出する役割を持つ木。その木がたくさん生えている森林が破壊され、減少していることも二酸化炭素の増加の原因だ。二番目に影響を与えやすいのはメタンガスだ。メタンは湿地や池、水田で枯れた植物が分解するときが発生する。また天然ガスを採取する際や、家畜のゲップにもメタンは発生する。温室効果ガスの濃度は十八世紀半ば、つまり産業革命が起こり始めた時から急激に増加している。石炭や石油を動力源として使用し、増加した人口を支えるため、農業や畜産の活性化に伴って耕地の拡大のための森林破壊や家畜が増加したことが発端だと考えられている。私は、温室効果ガスの増加は石炭や石油の消費などが原因だが、何よりもそれを吸収する森林が破壊され減少していくことが一番の原因だと考えている。そう思う理由を私が海外研修で体験したことを踏まえて伝えたいと思う。

私は学校の海外研修でボルネオ島に行った。私はある体験を通して森林があることの意義と大切さを感じた。それは現地の方の家へ一日ホームステイをしたことと、森林の中を散策したことだ。ホームステイ場所は周りが森に囲まれて川が流れていた。川はとても綺麗に澄んでいて、現地の方はその川で洗濯をしたりお風呂代わりにつかったりと日常生活で使用していた。森林の中はたくさんの動物が暮らしていた。出会った動物は皆、森林を住処にして生活をしている。森林はたくさんの生活を支えていることに私は森林があることの意義、森林を守る大切さを感じたのだ。そんな大切な森を守るためにどんな活動をすればよいのだろうか。現地の大学では旅行者に対して、エコツーリズムを通して森林を守ることの意義を伝えるという活動をしている。また現地のJICA隊員の方はどうしたら森林破壊をせずに村の人々がお金に困ることなく暮らせることができるのか提案をしていると話されていた。そして日本のNPOは、現地でプランテーション開発によって怪我を負った動物の保護、日本ではエコツアアを企画し、実際に見て、感じてもらうことを一番に活動を行っ

ている。

このような活動はなぜ行われているのだろうか。それは森林破壊が起きているからだ。森林破壊は温室効果ガスの増加に繋がる。ではなぜ森林破壊が起きるのだろうか。ボルネオ島を例に考えてみよう。森林破壊が起こる主な原因はプランテーション開発だ。1500万年前から存在していたと言われるボルネオ島の熱帯雨林はわずか50年間で40パーセント、ほとんどの森が姿を消している。そしてそのほとんどはプランテーションに変化している。そのプランテーションの多くはパーム油を栽培するためのものだ。パーム油は他の植物性油の中でも一番単位面積あたりの収穫量が多く、輸入価格が安いというメリットを持つ。そのため4半世紀で世界のパーム油の消費量は約2倍に上がっており、ボルネオ島の気候がパーム油生産に適していることもあって、ボルネオ島に位置する、マレーシアとインドネシアだけで世界のパーム油の約8割を賄っている。またパーム油は今までボルネオ島で行われてきた天然ゴムの栽培よりも収入が高いため、パーム油プランテーションの開発は終わりを見せることを知らない。

私たち日本人にとって、パーム油は生活に欠かせないものだ。日本でパーム油は菜種油につき2番目に多く利用されており、国民一人当たり一年間で約40キログラム以上使用されていると言われるほどだ。普段認識していないだけであって、私たちの身の回りの品はパーム油であふれている。例えば食品や嗜好品、洗剤や化粧品、パーソナルケア用品などスーパーにある製品の半数以上の製品に使用されているといわれている。パーム油は前述したように他の植物油に比べて格段に生産性が高く、1ヘクタールあたり大豆の10倍近くの収穫ができる。また、低価格で使用用途が広いため、たくさんの製品に使われやすいのだ。しかしこれほどのパーム油を生産するにはいくらパーム油の生産性が高くてもたくさんのプランテーション農園が必要になることはまず間違いないだろう。私たちが、世界中の人々が使う毎日の生活用品はたくさんの森林破壊の上に成り立っているとんでもない過言ではない。

プランテーションに変えられていく熱帯雨林を守るためにボルネオから遠く離れた日本に住む消費者は何ができるだろうか。パーム油製品を完全にボイコットしても、他の植物油のプランテーションが増えていくだけだ。しかしこの状態に指をくわえてみてはいけな。解決方法の一つとしてWWFが2004年に「持続可能なパーム油のための円卓会議」通称RSPOを設立した。これは環境などに十分配慮したパーム油農園を積極的に支援することで、パーム油産業全体を変えようというものだ。そして持続可能なパーム油を生産、またはその生産に貢献している商品には「RSPO認証マーク」や「グリーンパーム」マークが付けられる。しかし欧米ではこの活動は広まってきているものの、日本ではほとんどと言っていいほどこの認証マークは広まっていない。認証マークのことを、パーム油生産の現場がどうなっているのかを知る人を増やすことから始めていかなければならない。その上で自分自らが率先して、その商品を購入することが大事だ。

パーム油プランテーション開発を変化させ、持続可能なパーム油生産に変えることはこれ以上のプランテーション開発を止めることに繋がる。そうすれば、森林破壊も止めることが出来、結果的に地球温暖化を止めることに繋がると私は考えている。地球温暖化は私たちにとって重大な問題だ。誰かに任せておけばいつか解決されるという問題ではない。個人個人の小さなアクションが少しずつ

つ、少しずつ、世界を変えていくのだ。たくさんの人に知ってもらうために、自分には関係ないという
思いを変えてもらうために、この地球を私たちの後の世代にも安心して繋いでいけるように、私も自
分が出来る小さなアクションを続けていきたいと思う。